

病院名 鹿児島大学病院
都道府県名 鹿児島県

都道府県の情報

都道府県内の総人口	1,576,361 人
がん死亡者数 (%)	5,318人 (約22%)令和4年
高齢化率	32.5 % 令和2年国勢調査



鹿児島県は、日本本土の西南部に位置し、中国や韓国、東南アジア諸国に近接しています。

総面積は9,188平方キロメートルで、薩摩半島、大隅半島の二つの半島と、種子島、屋久島、奄美大島をはじめとする多くの離島があり、有人離島も28あります。離島人口(182,602人)及び離島面積(2,485平方キロメートル)は全国第1位となっており、全国でも有数の離島県です。

病院名 鹿児島大学病院
都道府県名 鹿児島県

都道府県内のがん患者の状況

がん種	罹患者数	罹患率 人口10万対	死亡者数	75歳未満年齢 調整死亡率 人口10万対
肺がん	1726人	107.7	1015人	11.9
大腸がん	1978人	123.5	723人	9.6
胃がん	1181人	73.7	418人	6.6
乳がん	1187人	74.1	186人	9.4
肝臓がん	662人	—	379人	—
子宮がん	410人	49.6	105人	6.1

病院名 鹿児島大学病院
都道府県名 鹿児島県

がん診療連携拠点病院の情報

都道府県がん診療連携拠点病院 1施設
鹿児島大学病院 672床

地域がん診療連携拠点病院 4施設
国立病院機構鹿児島医療センター 410床
鹿児島市立病院 574床
昭和会いまきいれ総合病院 350床
済生会川内病院 244床

特定領域がん診療連携拠点病院(全国で唯一)
博愛会 相良病院 56床

病院名 鹿児島大学病院
都道府県名 鹿児島県

がん診療病院の情報

がん診療連携拠点病院(5)

特定領域がん診療連携拠点病院(1)

地域がん診療病院(7)

県がん診療指定病院(14)

がん診療連携拠点病院(5)

鹿児島大学病院 (都道府県がん診療拠点)
独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センター (鹿児島市)
鹿児島市立病院 (鹿児島市)
済生会川内病院 (薩摩川内市)
公益財団法人昭和会今給黎総合病院 (鹿児島市)

特定領域がん診療連携拠点病院(1)

社会医療法人博愛会 相良病院 (乳がん)

地域がん診療病院(7)

出水郡医師会広域医療センター (阿久根市)
社会医療法人義経顕彰会種子島医療センター (西之表市)
独立行政法人国立病院機構南九州病院 (姶良市)
県民健康プラザ鹿児島医療センター (鹿屋市)
県立薩南病院 (南さつま市)
県立大島病院 (奄美市)
鹿児島市立医師会医療センター (鹿児島市)

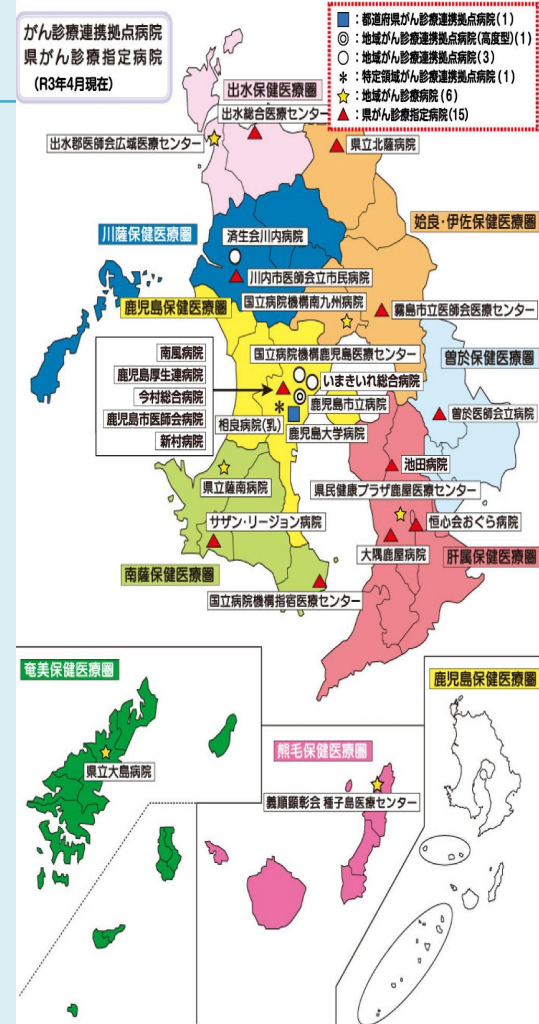
県がん診療指定病院(14)

公益社団法人鹿児島共済会南風病院
鹿児島厚生連病院
公益財団法人慈愛会今村病院
鹿児島市医師会病院
医療法人真栄会新村病院 (牟婁、前立腺がん)
出水総合医療センター
社団法人川内市医師会立市民病院
鹿児島県立北薩病院
特別医療法人聖国会サザン・リージョン病院
独立行政法人国立病院機構南薩病院
社会医療法人鹿児島愛心会大瀬鹿屋病院
恒心会おぐら病院
医療法人青仁会池田病院
曾於郡医師会病院

病院名 鹿児島大学病院
都道府県名 鹿児島県

都道府県におけるがん医療の特性

- 鹿児島県には、全国唯一での4種類のがん診療病院が存在する
 - 都道府県がん診療連携拠点病院(1)
 - がん診療連携拠点病院(4)
 - 特定領域がん診療連携拠点病院(1)
 - 地域がん診療病院(7)
- 特定領域(乳がん)において拠点病院と同等の機能を有する施設と拠点病院が連携を組むことで十分ながん医療を2次医療圏で提供
- 2次医療圏のがん医療を補完する目的で、県指定14箇所のがん診療指定病院がある



病院名 鹿児島大学病院
都道府県名 鹿児島県

都道府県におけるがん化学療法の現状と課題

【現状】

鹿児島県では、がん化学療法に関する最新の治療ガイドラインが採用されており、標準治療が実施されています。特に拠点病院では、副作用管理を含めた治療の質を高めるために、専門的な知識を持つ看護師や薬剤師が患者ケアにあたっています。

【課題】

医療従事者の育成：化学療法に精通した医師や専門看護師、薬剤師の数が不足しており、人材の育成が急務です。特に、地方部や離島での専門スタッフの確保は大きな課題となっています。

副作用の管理強化：化学療法による副作用が患者のQOLに大きな影響を与えるため、副作用管理におけるさらなる体制強化が必要です。薬物治療による副作用に関する早期対応やケアが不十分な場合があります、これを改善する必要があります。

鹿児島県がん診療連携協議会4部門合同研修会（がん診療・緩和ケア・相談支援・がん登録）：年2回、計18回開催、参加者は120-160名/回 11年間、27の鹿児島県がん診療病院と「多職種」のネットワークを構築

市民公開講座：年1回、計10回開催、参加者は100-160名/回

研修の概要

【タイトル】

免疫チェックポイント阻害薬を投与する患者が安心して地域で過ごせるために

【目的】

免疫チェックポイント阻害薬に関する現場の困りごとを抽出する
医師・看護師・薬剤師・MSWの4職種の顔が見える関係づくり

【対象者・人数】

医師、薬剤師、MSW、看護師 施設ごと4職種で1チームで参加
4×5施設=20人

【目標】

一般目標 (GIO)

免疫チェックポイント阻害薬投与を安全に行うために県内で統一した対応ができる。

到達目標 (SBO)

- ①免疫関連有害事象の症状が理解でき、症状出現の対応や施設間で連携を図ることができる
- ②職種間でネットワークを構築できる

プログラム

開始	終了	時間	研修方法	内容
13:30	13:40			オリエンテーション
13:40	14:00	20分	講義	irAEについて
14:00	14:30	30分	グループワーク	職種別 (irAE関連の問題点)
14:30	14:55	25分	(5G×5分)	職種別の発表
14:55	15:25	30分	グループワーク	施設別 (irAE関連の問題点)
15:25	15:55	25分	(5G×5分)	施設ごとの発表
15:55	16:15	20分	まとめ	問題点の抽出
16:15	16:20			アンケート

セッション1

日時	2026年2月 日(土) 13:30~16:15
場所	鹿児島大学病院 A棟6階 会議室
セッティング	
担当	医師・看護師・薬剤師・MSW
用意するもの	

【学習目標】

自施設の免疫チェックポイント阻害薬投与の現状や問題点など抽出、課題を明確にできる。

【事前準備】

各施設に免疫チェックポイント阻害薬の困りことを事前調査表(2025年8月)調査表作成(主な投与件数、マニュアルやチームなど整備はあるかなど)

【会場準備】

グループワークの会場作成

【すすめ方】

1. 職種別にグループワーク→発表
2. 病院別にグループワーク→発表

【セッションでの留意点】

MSWがirAEの理解ができるように講義を行い、グループワークに参加できるように配慮する。



研修の評価

【実施評価】

- ・研修受講者に、終了時アンケートを実施（理解度や運営、内容についての満足度に関すること）
- ・主催者側も振り返りを行い、改善点など共有する。

【結果評価】

- ・職種別や各施設ごとの問題点を把握し、課題を抽出する
- ・免疫関連有害事象の対策について、マニュアルを整備し配布できる
- ・半年後にマニュアルが活用できているか、施設内で周知状況を調査

【企画評価】

- ・研修会の内容のアンケートを評価
-